

「地域のなかで障がい者と同じときを過ごす」

担当教員名 國則 守生

1 コースの概要

日 程	2013年8月5日～30日、9月21日の4日間 (ただし、8月13日～18日は施設側休暇)
場 所	埼玉県三郷市『みどりの風』『工房・風のうた』
参加人数	12人

2 コースの目的

このFSは知的障がい者が地域で生活するために行う作業や活動に参加し、障がい者とともに活動することによって地域での障がい者福祉活動を理解し、学生自身が何をできるのかについてフィールドの現場で考え実感してもらうことを目的に実施しています。人間環境学部でのいわゆる「人間形成」のためのFSの1つです。また学生自らが課題を発見し、現場でチームとして学習を行うという意味で1つのPBL (Problem-based Learning) と捉えています。

埼玉県三郷市の社会福祉法人で、障がい者が行う軽作業、昼食作り、パン製作、廃品回収、散歩、パン販売(市役所などの地域を訪問し販売すること)などに参加し、就労支援や生活介護などの実態を体験します。多くの参加学生は障がい者と活動をともにするのが初めてですが、4日間の実習を行うことにより、どのような課題などがあるのかに気づきます。当初このプログラムを立ち上げたときには知的障がい者の看護実習という名称で募集を行っていましたが、教えられるのは私たちの方であり、私たちが実際にできるのはまずは障がい者と一緒になって同じときを過ごすことだと参加者は感じ、今のプログラム名となっています。

3 事前学習

事前学習として、6月22日(土)に施設側の職員の方を交えてイントロダクションの授業を行いました。そこでは施設の紹介、活動内容の紹介、施設での注意事項などについての丁寧な説明を施設側から受けたのち、質疑応答が行われました。学生からは、どのような問題意識を持って参加するのかなどの発表がおこなわれました。また、パン製作希望者に対しては、0157を対象とした事前検査が求められました。

4 行程(内容)

施設側の活動は大きく分けて①生活介護(程度の差により2つの施設がある)、②就労活動(パン製作、厨房での食事提供、地域生活支援センターでの軽作業・内職活動)の2つの活動に大別されますが、5つの場所別活動に対して1日1場所のかたちで参加することが基本となっています。2013年度はとくに9月21日(土)に行われた「まつり」(施設側がそれまでに準備した食品・パン・クッキーなどを販売するとともに障がい者が地域住民と交流をもつ特別な行事)も対象に含め、準備段階を含めて多くの学生の参加を得ました。

1日の活動は、朝8時からの職員打ち合わせから午後3時までの介護・就労活動に参加した後、当日のフィールドノートのまとめを行い、担当職員からコメントをもらうことで終わるという日程でした。その後、職員の方との自由な意見交換も行われました。

5 事後学習

事後学習としては、10月26日(土)に施設側職員(6月と同じ方)の参加をえて、事後授業が行われました。最初に8・9月の実習の際作成されたフィールドノートをもとに、学生側から事後報告が行われました。実際に活動に参加しての感想や施設側へのコメントなどが発表されました。次に全般を見渡しての課題・思いつき・回想(reflections)を発表してもらいました。自分の身近にどのような障がい者施設があるのか、障がい者雇用のマクロ的な状況や障がい者総合支援法の役割や影響など、色々な関連事項についてそれぞれの学生がまとめた結果を発表し、施設の方を交えてコメントしあいました。「障がいのある人もない人も共に快適な社会環境」を築くことを考える機会として、卒業後の職場での役割や地域での社会貢献などの意識に繋げて議論を行いました。この結果は最後に報告書の形でとりまとめが行われました。



地域との「まつり」の様子

職員の方との交流